

Olive News

基本理念 患者さんの権利を尊重し、良質・安全な医療を提供するとともに、医学の教育・研究を推進し、医療の発展に寄与します。



「香川大学医学部附属病院キャラクター誕生！」

香川大学医学部附属病院 副病院長(教育・地域連携担当) 金西 賢治

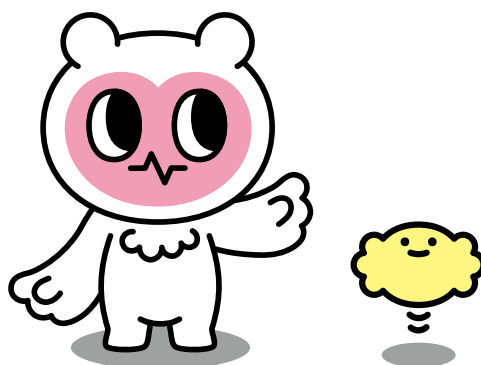
香川大学医学部附属病院の新しいキャラクター「くーちゃん」を紹介させていただきます。くーちゃんは翼のある不思議な生きもの。大きな目を持ち、病気や悩みで困っている人を発見し、その大きな翼でどこにでも飛んで駆けつけることができます。



心電図のような口は人々の心の揺れを敏感に察知し、悩みや痛みに共感することができます。そして、翼である両手とふわふわの羽毛で病気の人や悩みを抱える人を包み込み、持ち前の愛らしさで癒してくれます。



また、ふわふわの羽毛から生まれた黄色い相棒と一緒に病気の予防活動にも努力しています。これからくーちゃんには、ゆるキャラグランプリも目指せるくらいに大活躍してもらいたいと考えています。また、黄色い相棒の名前も募集中です。



2022年冬に香川大学医学部附属病院の広報誌として創刊した「KUH(くう〜)」は、香川大学医学部附属病院の医療を広く香川県民に知っていただくことを目的に、これまでにない、新しくユニークな広報誌の創出を目標としています。その中で、小さなお子様からご高齢の方にまで愛される病院イメージの具現化された象徴として、附属病院イメージキャラクターが誕生することになりました。病院や関連する医療行為、医療従事者などからイメージキャラクターを作ることはこれまでも多くの施設で行われてきました。人ではない対象を擬人化することによる効果はこれまでも多くの業界で議論されていますが、キャラクター化、あるいは擬人化することの利点として、人は擬人化されたものからの意思を読み取ることで、感情移入しやすく、共感することで親しみが湧きやすくなるとされています。そういった効果から擬人化されたキャラクターからは肯定的な印象を受けやすく、最近では2020年の7月、NPO法人日本小児がん研究グループ(JCCG)が出す広報誌に日本全国のゆるキャラが登場し、コロナ禍で面会の機会が減った病院で病気と闘っている子供たちにご当地キャラからエールを送る特集が組まれ、多くの闘病中の子どもたちが勇気づけられたとのことです(NPO法人日本小児がん研究グループ JCCG「JCCG Press」号外第9号)。こういったキャラクターは可愛いだけでなく、多くの人達にささやかな勇気を送ることができるものと信じています。くーちゃんも皆様の力でそんなキャラクターに育てていただければと思います。

より安全で快適な麻酔

診療科長 荻野 祐一

8月1日付けで、群馬大学から香川大学へと異動し、当院の麻酔・ペインクリニック科の診療科長を拝命いたしました。私はこれまで、麻酔・ペインクリニック科医として研鑽を積みつつ、脳のMRI撮像を用いた研究、いわゆる“脳科学”に取り組み、痛みの病態解明やスポーツ医学に取り組んできました。研究成果の一部は今年3月に『痛みの心理学：感情として痛みを理解する』（誠心書房）という本に詳しくまとめておりますのでご覧いただければ幸いです。

麻酔は、手術において要（かなめ）となる知識体系・技術です。その知識と技術は、ペインクリニック、集中治療、緩和医療へと、様々な医療分野で役立っています。私事で恐縮ですが、今年5月に副鼻腔手術を受け、その際に全身麻酔を経験しました。麻酔科医となってから、これまで何千例と人に麻酔を施してきたはずですが、いざ自分が患者となり全身麻酔を受けるとなったとき、やはり万が一のリスク（不確実性）があるため、もしかすると不安に感じるような時もありました。入院生活を経て、自分が患者に



なることにより、本当に患者さんの求めていることに、あらためて気が付いたことが多々ありました。それらの気づきを、今後の周術期医療に還元したいと考えております。

私にとって、香川県は初めての土地ではありますが、瀬戸内の美しい海と島々と、豊かな自然資源を背景とした独自の魅力と発信力があり、大きな可能性を感じております。当科が専門としている麻酔の知識と技術を基盤として、より安全で快適な麻酔を提供し、さらに患者さんに寄り添った、人間味ある医療を実践したいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

災害看護専門看護師の紹介

香川大学医学部附属病院 看護部 熊野 耕

こんにちは。私は香川大学医学部附属病院の救命救急センターで働いている男性看護師の熊野です。災害看護専門看護師は、災害時に迅速かつ効果的な医療ケアを提供する専門性を備え、被災地の医療体制の強化と連携の向上に寄与する役割・能力を有します。

普段は看護師として働きながら、他の病棟からの相談を受けて一般病棟や外来で行われる災害訓練のお手伝いをしたり、看護師だけでなく他の職種の人と話をし、病院全体の災害マニュアルの修正や病院全体の訓練をしたり、病院内外の災害研修の講師をしています。平成30年の西日本豪雨災害では香川大学医学部附属病院DMATとして岡山に派遣され、被災者の支援に携わらせてもらいました。

ところでみなさんは普段飲んでいるお薬の名前は覚えていますか？平成30年豪雨災害で倉敷に行ったときには、家が流されてお薬やお薬手帳がなくなってしまった。何のお薬を飲んでいるかわからなくなってしまった、持病をお持ちの被災者の方がたくさんいました。

普段からお薬を飲んでいる方は、避難する時に持ち出



すカバンにお薬手帳のコピーを入れておき、さらに自分と家族のスマホで写真を撮っておいて、尋ねられたら答えられるようにしておきましょう。毎年のように日本のどこかで水害が発生していますし、6月末は毎日のように香川でも土砂降りの雨が降りました。今年に入ってからは地震もたくさん起きています。香川は本当に災害の少ない住みやすい土地ですが、台風の季節になるこの時期に災害の備え、点検をしてみませんか？

部長の横顔

香川大学医学部附属病院 手術部 部長 隈元 謙介



座右の銘、ポリシー

今日のように安全な手術ができるまでには、多くの失敗と犠牲があったはずですが。麻酔法や感染症対策の確立、外科医のたゆまぬ努力と目覚ましい医療機器の開発のおかげで、現在の機能温存低侵襲手術に至りました。あきらめないこと「継続は力なり」努力すること「努力は天才に勝る」、ただ努力しても報われないことや無駄に思えることもあります。そこに1%のひらめきがあるとエジソンのような偉人になれるのだろうと思考しながら日々精進しています。

手術部紹介

手術部は、手術室で安全な麻酔管理に加えて看護師による技術的支援と温かい心理的サポートのもと、外科系診療科の先生方が最高のパフォーマンスを演じて、外科的治療が必要な患者様に最高の治療を提供できる環境づくりに貢献しています。また、手術室は閉鎖的施設ゆえに個人情報保護の観点からも治療を受けられる患者さんの医療倫理や医療安全に十分に配慮して安心して実施されるよう努めています。環境保全のためにも医療資源を大切に使うことも心がけています。

師長の横顔

香川大学医学部附属病院 手術部 看護師長 橋田 由吏



座右の銘、ポリシー

私の看護におけるポリシーは、「看護は対象者の生活と共にある」です。手術看護は、安心して手術を受けられるよう術前から術後まで一貫したケアを提供します。手術中の器械出し看護や外回り看護だけでなく、患者さんの生活や健康を最優先に考え、手術のプロセス全体にわたって総合的なケアを提供できるようスタッフを支援していきたいです。

手術部紹介

ロボット支援下手術に代表されるように患者さんにとって低侵襲の手術が可能となった現在、手術機器は精密に、手技は高難度になっています。手術部の看護師も日々進歩する医療におくれを取ることなく知識と技術をアップデートしています。看護師約50名と、各診療科医、麻酔科医、臨床工学技士、薬剤師、診療放射線技師、医療機器操作員、事務員そのほか多くの方たちとチームワークを大切に患者さんの安心できる手術を支えています。



手術部スタッフ

令和5年度香川大学医学部附属病院 関係医療機関懇談会を開催しました。

香川大学医学部附属病院 副病院長(教育・地域連携担当) **金西 賢治**

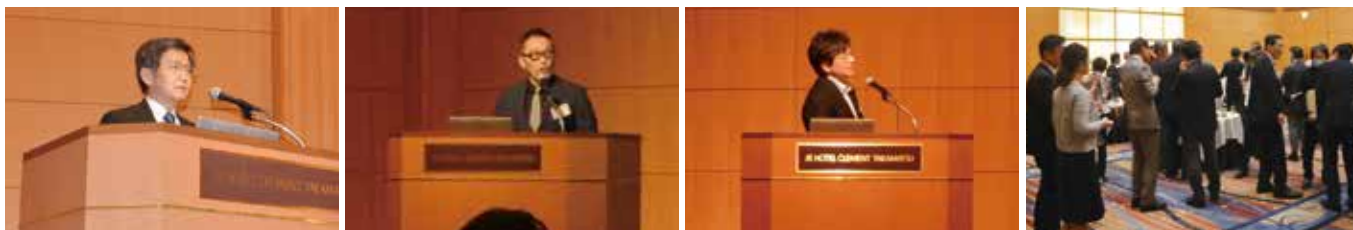
6月22日(木)、高松市内のホテルにおいて、令和5年度関係医療機関懇談会を開催しました。

この懇談会は地域の関係医療機関との診療連携や協力体制をより強化すること及び大学病院の現状等を報告することを目的としています。今回は令和元年度以来4年ぶりに対面で開催することができ、関係医療機関から病院長等60名、本院から35名の総勢95名の参加がありました。

冒頭に門脇則光病院長から挨拶及び大学病院の現状と将来構想についての報告があり、次に、令和4年9月に本院整形外科教授に就任された石川正和先生から教育・研究・診療の概要等の紹介を行いました。

最後に、関係医療機関から小豆島中央病院の山口真弘院長より医療機関の取り組みなどについてご講演頂きました。

引き続き開催された懇親会では、活発な意見・情報交換が行われ、盛会のうちに終わることができました。



第22回卒後臨床研修指導医養成講習会の開催報告

香川大学医学部附属病院 卒後臨床研修センター センター長 **安田 真之**



去る8月18日(金)・19日(土)の2日間、福利厚生施設棟(調剤薬局)2階にて第22回香川大学医学部附属病院 卒後臨床研修指導医養成講習会を開催しました。

指導医養成講習会とは、研修医を受け入れ指導する病院側の指導者養成を目的とした講習会です。開催については、厚生労働省の指針にのっとり開催することが規定されており、報告書の提出も求められています。

今年度は、世話人の先生方(8名)の指導のもと、本院20名および県内の協力型臨床研修病院8施設より8名の計28名の先生方が受講され、厚生労働省医政局長認定の修了証書を授与いたしました。また、2020年度からの卒後臨床研修制度見直しにおける多職種による研修医評価の実施を踏まえ、本院看護師にも参加をお願いしています。

特別講演では、田中 信一郎先生(中国四国厚生局健康福祉部医事課臨床研修審査専門官)、高橋 睦雄課長(香川県健康福祉部医務国保課)からご講演いただきました。卒後臨床研修制度ならびに県行政における医師育成・確保施策の現状と今後の取り組みに関して、理解を深める貴重な機会となりました。

今後も、指導医育成を通じて、香川県の地域医療の充実に貢献できる医師育成に努めてまいります。ご協力いただきました関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

ケーブルTVで放送中



詳しくはこちら



9月のテーマ「適正医療を支える病理診断科の役割 ～肺癌診療編～」

10月のテーマ「知っておきたい糖尿病最前線 ～糖尿病の新たな展望～」

11月のテーマ「切らずに治す放射線治療」

イベントカレンダー 2023年9月～11月 予定表

月日	時間	場所	名称及び内容	担当	連絡先
9/27(※)	14:00～15:00	中央診療棟2階 カンファレンスルーム	第2回 肝臓病教室	肝炎治療相談窓口	(087)891-2468
10/2(月) 10/6(金)	9:00～15:00	附属病院1階受付ホール	ホスピス・緩和ケア週間	緩和ケアセンター	(087)891-2455
10/7(土)	14:00～16:00	穴吹学園ホール (旧・高松テルサ)	肝疾患 一般医療従事者研修会	肝炎治療相談窓口	(087)891-2468
11/11(土)	13:00～15:00	ふらっと仏生山 (高松市仏生山交流センター)	2023年度糖尿病予防キャンペーン 西日本地区 in香川	内分泌代謝内科	(087)891-2230

編集委員会(50音順)

(2023年6月現在)

岡内(外来)、金西(副病院長)、亀田(病棟)、木内(検査)、小坂(薬剤)、近藤(医事・医療支援)、圖子(管理)、筒井(経営企画)、松賀(看護)、門田(放射線)、横井(医療情報)、渡邊(総務)〔委員長 門脇病院長〕